

平成21年度地球環境基金 海外派遣研修募集要項 タイ・バングラデシュ活動体験コース

【研修の実施にあたって】

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金（以下「地球環境基金」）では、ラムサールセンターの協力のもと、「海外派遣研修（タイ・バングラデシュ活動体験コース）」の研修生を下記の要領で募集します。

この研修は、開発途上地域における NGO の環境保全活動に関心をもち、自分も参加してみたいと考えている人たちのために、海外での入門的知識の習得と経験の機会を提供して、開発途上地域における国際協力活動についての理解を深め、参加の意欲を高めてもらい、わが国の環境 NGO による国際協力の一層の振興と人材の育成に資することを目的として毎年、実施するものです。

本年度は、現地派遣研修の前半をタイ、後半をバングラデシュで実施します。アジア地域で環境教育に顕著な実績をあげ、メコン川流域の国際協力活動で主導的役割を担っているタイのマヒドン大学環境・資源学部（バンコク近郊サラヤ）、沿岸海域開発によって消失したマングローブ林の再生に住民参加の環境教育で取り組むタイの NGO、ウエットランド・インターナショナル・タイ（WIT）（スラタニ、クラビ）、地球温暖化・気候変動の影響が懸念される低湿地帯で暮らす貧困住民への対策・リスクマネジメントのモデル開発に取り組むバングラデシュの NGO、バングラデシュ・ポーシュ（BDP）の3団体が現地パートナーとなります。

随行、コーディネーターは、アジアの湿地保全で活躍している NGO、ラムサールセンター（東京）が担当します。また、BDP は本年度の地球環境基金の助成団体、WIT は同助成団体のウエットランド・インターナショナル・中国のカウンターパートとして活躍中です。

【研修・募集の概要】

活動体験コースは実践活動の体験等を通して開発途上地域における環境保全活動に必要な知識と経験を取得してもらうため、長期の滞在（総合コース）が基本となります。その一方で、就業しながら環境保全活動に参加される方も多いため、主に社会人を対象に就業との両立も踏まえて研修日程を短縮したコース（集約コース）も設けています。

研修日程(予定)	概要	募集定員
事前研修 7/26(日)	東京都内における現地派遣研修のオリエンテーション	8名(両コース併せて8名) 集約コースは3名程度まで
現地派遣研修 総合コース: 8/27(木)~9/19(土) 集約コース: 8/27(木)~9/8(火)	タイ(バンコク、スラタニ、クラビ)、バングラデシュ(ダッカ、コックスバザール、モヘシュカリ島)の各地で、環境保全に取り組む諸団体を訪問し、現地の状況、開発と環境保全、国際協力等について学びます。	
研修報告会 11月中に実施予定	東京都内における研修の報告会	

*航空便等の都合で出発日・帰国日がずれる可能性があります。

*集約コースの選考に関しては、社会人を優先します。(応募日から研修終了日までの期間において就業されている方でアルバイトを除く)

【研修内容・プログラム】

(1) 現地派遣研修の研修先

タイ（総合コース、集約コース）

- ①アジアの環境教育で主導的役割を担っている王立マヒドン大学（バンコク）の協力によって、在バンコクの国際機関や国際 NGO などをして、「アジアの環境と国際協力」に関する基礎的・概括的知識、国際センスを学習します。
- ②国際 NGO「ウェットランド・インターナショナル・タイ（WIT）」の協力により、南部タイで環境教育とエビ養殖のために消失したマングローブ林再生プロジェクトを中心に体験学習します。

バングラデシュ（総合コースのみ）

- ①バングラデシュは NGO 活動の活発な国であり、その中でも国際 NGO と協力し、さまざまな環境保全活動に取り組んでいる代表的な NGO に集まってもらい、その現状を学習します。
- ②地球温暖化・気候変動の影響をもっとも受ける、沿岸の低湿地帯で暮らす貧困住民への、環境教育と、適応・リスクマネジメントのモデル開発に取り組む NGO バングラデシュ・ポーシュの協力によって、辺境のモヘシュカリ島のプロジェクトを体験学習します。

(2) 日程

前半の日程

日時	プログラム	宿泊
8月 27日(木)	東京(成田)～バンコク	バンコク・マヒドン大学ゲストハウス泊
28日(金)	国際セミナー 「アジアの環境問題と国際協力」に参加、研修	
29日(土)	国際セミナー 「アジアの環境教育の実際と国際協力の重要性」に参加、研修	
30日(日)	午前:バンコク～スラタニ 午後:セミナー「生命の源:タイ湾の価値」に参加、研修	スラタニ・ホテル泊
31日(月)	午前:現地行政機関訪問、研修 午後:バンドン湾マングローブ林、エビ養殖跡地等視察	スラタニ・ 現地ホームステイ
9月 1日(火)	午前:マングローブ植林活動を体験研修 午後:地元住民(漁民)とのワークショップに参加、研修	
2日(水)	午前:「沿岸管理への住民参加」プロジェクトを体験研修 午後:マングローブ林再生プロジェクトの視察、研修	
3日(木)	スラタニ～クラビ(バス)	クラビ・ホテル泊
4日(金)	午前:クラビ河口干潟再生プロジェクト視察、研修 午後:セミナー「水鳥フライウェイ重要湿地」に参加、研修	
5日(土)	午前:アマルトパニチュヌクル中学校の環境教育プログラムに参加、研修	
6日(日)	クラビ～バンコク	バンコク・ホテル泊
7日(月)	午前:タイ研修のまとめ 午後:集約コースは帰国へ	

後半の日程

日時	プログラム	宿泊
9月 8日(火)	バンコク～ダッカ	ダッカ・ホテル泊
9日(水)	国際セミナー「バングラデシュの環境とNGOバングラデシュ・ポーシユ(BDP)の活動」に参加、研修	
10日(木)	午前:セミナー「バングラデシュNGO会議」に参加、研修 午後:ダッカ市内の都市環境問題の視察、研修	
11日(金)	ダッカ～コックスバザール(バス)	コックスバザール・ホテル泊
12日(土)	BDP「気候変動災害リスクマネジメント」プロジェクトサイトのモヘシュカリ島ドルガダ村現地視察、研修	
13日(日)	午前:コックスバザール～モヘシュカリ島ドルガダ村 午後:地元住民(漁民)とのワークショップに参加、研修	モヘシュカリ島・現地滞在
14日(月)	「気候変動災害リスクマネジメント」活動を体験研修(沿岸低地帯の自然環境復元再生/マングローブ植林)	コックスバザール・ホテル泊
15日(火)	午前:モヘシュカリ島ドルガダ村～コックスバザール 午後:研修のまとめ	
16日(水)	午前:市内の環境視察、研修 午後:コックスバザール～ダッカ	ダッカ・ホテル泊
17日(木)	午前:まとめと評価 午後:フリー	
18日(金)	ダッカ～バンコク	トランジット
19日(土)	バンコク～東京・成田	

*各プログラムの詳細は「資料編」を参照

【地図】



【旅程】

- 8/27 東京…(空路)…バンコク
- 8/30 バンコク…(空路)…スラタニ
- 9/ 3 スラタニ…(バス)…クラビ
- 9/ 6 クラビ…(空路)…バンコク
- 9/ 8 バンコク…(空路)…ダッカ
- *集約コースは帰国
- 9/11 ダッカ…(バス)…
コックスバザール
- 9/16 コックスバザール
…(空路)…ダッカ
- 9/18 ダッカ…(空路)…バンコク
- 9/19 バンコク…(空路)…東京

【事前研修及び研修報告会】

現地派遣研修を効果的、効率的に実施するために事前研修を、現地派遣研修の成果をまとめ、検証するための研修報告会を東京都内で開催します。事前研修（7月26日）、研修報告会（11月）ともに参加は必須です。また、現地派遣研修後に報告書を作成しますので、研修レポートを提出していただきます。

【応募資格】

開発途上地域における環境 NGO 活動への参加に関心を有する者で、次の要件を満たす男女。

- ① 18歳以上の男女で、高校生は不可。未成年者は保護者の同意が必要です。
- ② 心身ともに健康であること。
- ③ 過去にこの「海外派遣研修」を受講したことがないこと。
- ④ 日本語コミュニケーションに支障がなく、簡単な日常英語を理解できることが望ましい。
- ⑤ 一時的な短期滞在者（外国人登録をしていない者、過去1年間日本に滞在していない者、1年以内に日本から離れる可能性のある者）でないこと。

【参加費・経費】

参加費：5万円（総合コース、集約コースとも同額）

*参加費は、現地派遣研修に必要な経費（航空運賃、滞在費、研修プログラム費用など）及び事前研修、事後報告会などの経費の一部に充当され、その他の不足分は、環境再生保全機構が負担します。

ただし、次の経費は別途、各自で負担していただきます。

- ① 現地研修中の飲食代（各自、または割勘定で清算します）
- ② 現地研修中の個人的支出（電話代、クリーニング代、その他雑費）
- ③ 傷害、疾病に関する個人的な医療費
- ④ 渡航手続費用、予防注射接種費など
- ⑤ 超過手荷物運搬料金
- ⑥ 任意の海外旅行傷害保険料

【応募方法・申込締切】

応募方法：地球環境基金のホームページから、海外派遣研修（活動体験コース）の申込書類「①申込書、②履歴書、③小論文」の様式をダウンロードして、記入、提出してください。

- ①申込書 *集約コース希望者は、その理由についても記載してください。
- ②履歴書 *6カ月以内に撮影した上半身無帽の写真（4.5cm×3.5cm、裏に名前を記入）を貼付。集約コース希望者は就業中の現職を必ず記載。
- ③小論文 *様式に記載された項目についてまとめること。

申込用紙：下記 URL からダウンロードしてください。

URL：http://www.erca.go.jp/jfge/training/oversea_index.html

申込締切：平成21年7月8日（水）必着

【申込・問合せ先】

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課（担当：長倉恵美子、合谷真弓）

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階

TEL：044-520-9505 FAX：044-520-2190

E-mail：c-kikin@erca.go.jp URL：<http://www.erca.go.jp/jfge>

【研修者の決定・通知】

決 定：申込書類をもとに本研修の目的、趣旨に照らし研修意欲や環境問題に関する基本的な認識、知識、論理性、表現力、英会話能力などを審査し、決定します。なお、選考にあたっては海外での活動歴の少ない方から優先させていただきます。

通 知：7月15日頃までに研修の候補者には電話連絡後、郵送にて通知します。

【現地派遣研修の中止・変更】

審査の結果、適格者が募集定員に満たない場合、派遣先地域の治安状況、災害などで実施が困難になった場合、本研修を中止、又はプログラムが一部変更される可能性があります。

【海外旅行損害保険の適用】

研修生全員の海外旅行損害保険に加入します。それによる、研修中の不慮の事故等による損害の環境再生保全機構の補償は、以下の範囲に限られます。

傷害	死亡	5000万円	治療	800万円
疾病	死亡	3000万円	治療	800万円
賠償責任	5000万円			
携行品	50万円			
救援者	600万円			

【実施協力団体 ラムサールセンター】

1990年の設立以来、アジアの湿地保全と賢明な利用の促進とラムサール条約の普及啓発に取り組み、各国の政府、国際機関、NGO等とのネットワークを構築して活躍するNGOとして、次のスタッフが随行して現地研修を実施します。

現地随行スタッフ：武者孝幸／総合コース担当（ラムサールセンター副会長）
中村玲子／集約コース担当（ラムサールセンター事務局長）
市川智子／総合コース担当（ラムサールセンター事務局長）

事務局：〒146-0084 東京都大田区南久が原2-10-3 TEL：03-3758-7926

E-mail：ramsarcj.nakamura@nifty.com URL：http://homepage1.nifty.com/rcj/

【現地の協力団体・NGO】

マヒドン大学環境・資源管理学部：

王立マヒドン大学の自然、環境、自然資源に関する学部。バンコク市内の河川の水質汚染が健在化したことを契機に、1978年に設置された。湿地の管理・調査・研修センターを併設し、国内の湿地の管理研究だけでなく、メコン下流域国の環境系大学のネットワークの要ともなっている。本研修コーディネーターのサンサニ・チョーウ准教授は、2008年ラムサール条約国際湿地保全賞受賞者。

ウエットランド・インターナショナル・タイ（WIT）：

オランダに本部をおく国際湿地NGO「Wetlands International」のタイ支部。タイ政府や地方政府と協力し南部タイのラムサール条約登録湿地の保全・管理を中心に、渡り鳥の保護やマングローブ林再生、貧困の軽減・生活向上、環境教育などに取り組んでいる。今年度の地球環境基金助成事業「東アジア・オーストラリアフライウェイに参加する国々での『湿地の学校』ネットワーク」（WI中国）のカウンターパート団体。コーディネーターのアセ・サヤカ代表は、たびたび来日し、各地の湿地専門家、NGOと親交がある。

バングラデシュ・ポーシュ（BDP）：

ダッカに本部をおく環境・開発NGO。1983年設立。国内各地で学校に行けない貧困家庭の子どもを対象としたノンフォーマルスクールの運営と、とくに、南部バングラデシュの辺境地域における環境保全と社会開発の両立をめざした活動で実績をあげている。地元住民の自立的な自然資源管理と環境再生能力の確立のためのプロジェクトを多数実施中で、地球環境基金助成「モヘシュカリ島沿岸村落の気候変動災害リスクマネジメント開発モデル事業」は2年目。コーディネーターのサノワ・ホセイン代表も、国際会議の出席などでたびたび来日、日本の関係者と親交が深い。

平成21年度地球環境基金 海外派遣研修募集要項 タイ・バングラデシュ活動体験コース ＜資料編＞

【概要】

東南アジアは、政治、経済、民族、文化、言語、宗教などを異にする多様な国家で構成されている。環境も、熱帯～亜熱帯モンスーン気候にあって、海洋から山岳まで多様な自然に囲まれている。また、開発途上国といっても、その開発の速度、形態も違い、抱える環境問題も複雑、多岐にわたっている。

タイは、アジアの途上国のなかでは比較的、開発の進んだ国で、GDP、教育レベルも高く、環境問題への取り組みも活発で、国際 NGO の参加、交流も盛んである。バングラデシュは、独立後 30 年にも満たない、まだまだ未整備な問題を多くかかえた、若い国である。GDP も教育レベルも低い、国連の「最貧国」のひとつである。国づくりに NGO が数多く参加していることで知られるが、資金、人材、経験が不足し、国際社会の支援を求めている。仏教国のタイとイスラム教のバングラデシュは、環境問題をはじめ、あらゆる面において対極的な位置にある。

研修は、東南アジアのこうした多様な環境問題に関心をもち、理解し、開発途上地域での国際協力活動をめざす人材を育成するため、両国で、次のテーマのプログラムで実施する。

- ・タイ：「アジアの環境問題」「環境教育」「渡り鳥保護」
- ・バングラデシュ：「地球温暖化（気候変動）」「住民参加」「NGO 運営」

【タイにおけるプログラム】

(1)アジアの環境と国際協力の学習

開発途上地域における開発と環境問題、地域ニーズを学習する 2 つのワークショップを、全体日程の第 1 プログラムとして、2 日間、タイ、バンコク郊外サラヤで、マヒドン大学環境・資源管理学部と共催する。コーディネーターは同学部のサンサニ・チョーウ教授（ラムサール条約国際湿地保全賞受賞）。

●「アジアの環境問題と国際協力の重要性」ワークショップ

東南アジアの環境問題の国際組織が集中するバンコクの主な国際機関と国際 NGO から講師を招いて、標記テーマで開催する。UNEP、FAO、IUCN、WWF、SEI（ストックホルム環境研究所）、BCST（タイ鳥類保護協会）などの参加を予定している。

●「アジアの環境教育における国際協力」ワークショップ

アジアの環境教育の人材育成で知られるマヒドン大学環境・資源管理学部の、さまざまな実践事例を中心に、環境教育に関する国際協力・ネットワーク・パートナーとの協働を成功させるプロセスについて学習、討論する。

(2)タイの NGO プロジェクトの体験学習

開発途上地域における環境保全に関する活動と開発途上地域における NGO による環境保全活動の実践体験として、タイで、同国の国際 NGO「ウエットランド・インターナショナル・タイ（WIT）」のプロジェクトに参加、実践学習する。コーディネーターは、WIT のアセ・サヤカ代表。

●「スラタニ／バンドン湾岸の持続可能な環境再生と人々の生活向上プロジェクト」

スラタニは、バンコクの南約 700 キロ、バンドン湾に面した港町。マングローブ林が伐採され、

エビ養殖の盛んな地域だが、養殖池は連作使用され、やがて放棄される。そして、新たな伐採が繰り返され、環境は悪化し、影響は人々の生活にしわよせされる。途上国特有の困難な状況である。そこで政府は、同地域におけるエビ養殖事業を禁止した。しかし、養殖池は放棄され、マングローブは伐採されたままである。そこで、NGO「バンドン湾保全ネットワーク」と WIT は、スラタニ県当局と協力して、放棄された養殖池のマングローブ林再生に取り組んでいる。環境再生、生物多様性の復元であると同時に、地元の人々の生活向上をめざす、社会開発事業でもある。地元住民への環境教育、植林などの実践活動を、社会開発事業（エコツーリズム）でもある地元の民家民宿にホームステイしながら体験学習する。



ニッパヤシ林



マングローブ植林

住民参加社会開発



漁業のようす



● 「クラビ／クラビ川河口湿地のマングローブ生態系再生プロジェクト」

クラビは、スラタニからさらに南約 150 キロ、タイ半島西岸、インド洋アンダマン海に面した、外国人観光客も多く訪れる景勝地。2004 年のインド洋大津波の被災地でもある。広大な干潟とマングローブ林はラムサール条約の登録湿地で、シギ・チドリ類の重要な中継・生息地として「東アジアオーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」のひとつでもある。

しかし、スラタニ同様、エビ養殖への乱開発などで急速にマングローブが伐採、消失し、環境が悪化。絶滅危惧鳥類はじめ、豊かな生物多様性が失われたことをタイ王室も懸念し、WIT のこのプロジェクトを中心に大がかりな環境再生事業が進められている。研修では、地元住民や同地のアマルトパニチュヌクル中学校と連携した環境教育と、マングローブ植林の実際を体験学習する。

また WIT の、NGO 組織の運営についても学習する。

なお、スラタニ〜クラビは、東海岸から西海岸へバスで移動し、国内の環境全般を視察する。



クラビ河口干潟



クラビ湾・マングローブ林



マングローブ植林



環境教育の実際

【バングラデシュにおけるプログラム】

(3)バングラデシュの NGO プロジェクトの体験学習

開発途上地域における環境保全に関する活動と開発途上地域における NGO による環境保全活動の実践体験、さらに、NGO が抱える活動の課題と取り組みとして、バングラデシュで、同国の NGO 会議と、政府登録 NGO「バングラデシュ・ポーシュ (BDP)」のプロジェクト (地球環境基金助成事業) に参加、実践学習する。コーディネーターは、BDP のサノワ・ホセイン代表。

●「バングラデシュ NGO 交流会議 (仮称)」

バングラデシュでは、さまざまな分野で、数多くの NGO が活動している。ノーベル平和賞受賞の「グラミンバンク」もその事例である。自然・環境分野でもさまざまなアプローチから、さまざまな国際協力のもと各地で活動を展開している。日本の開発 NGO のシャプラニールやオイスカも活躍してきたが、開発途上国特有のむずかしい問題に直面し、停滞を余儀なくされている。その原因と克服すべき課題をなどをめぐって、まず、首都ダッカで NGO 会議を招集し、討論に参加する。また、共催 NGO の BDP では、NGO 組織運営の実際を体験学習する。BDP は、過去 2 回、地球環境基金の助成を受け、現在も、「バングラデシュ国モヘシュカリ島沿岸村落における気候変動災害リスクマネジメント開発モデル事業」の助成を受けている。

●「モヘシュカリ島沿岸村落の気候変動災害リスクマネジメント開発モデル事業」

モヘシュカリ島は、バングラデシュ南東のコックスバザール市の北西、ベンガル湾に面した、全体が干潟の低湿地の島。バングラデシュは全体が河口干潟の国で、海抜が低いためたびたび水害に襲われ、地球上でもっとも気候変動の影響を受けやすい国のひとつだが、同島はとくに近年頻

発するサイクロンによる洪水、高潮の被害が甚大な地域である。電気もなくインフラ整備の遅れた、同国の中でも最貧困地域の住民の深刻な生活危機を救うため、BDP は、気候変動リスクを軽減し、かつ適応できる「環境の再生・創造」に取り組んでいる。住民参加による適応型漁業・農業・塩田製塩のモデルを開発するための、調査・研究、環境教育、地域コミュニティづくりの各種プログラムの実践を体験学習する。とくに地元住民への普及啓発および討論フォーラムに参加する。なお、現地には宿泊施設がないため、BDP 現地事務所などに分宿する。



モヘシュカリ島ドルガダ村



ドルガダ村の子どもたち